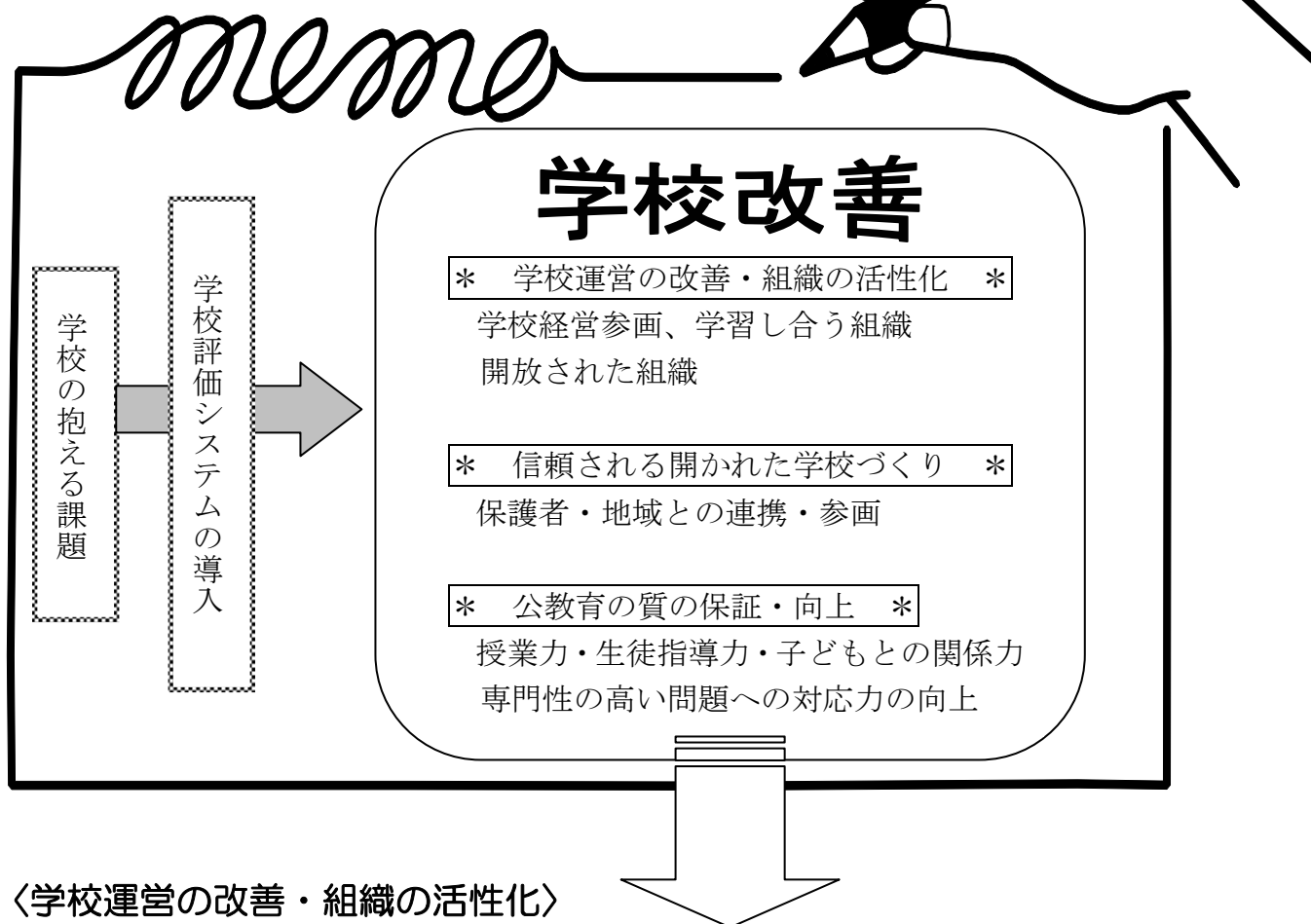


# 第1章 学校評価の考え方

## 1 何のために学校評価をするのでしょうか？



### 〈学校運営の改善・組織の活性化〉

- (1) 各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより学校として組織的・継続的な改善を図る。

### 〈信頼される開かれた学校づくり〉

- (2) 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進める。

### 〈公教育の質の保証・向上〉

- (3) 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図る。

## 2 学校評価については法令で規定されています

### 〈学校教育法〉

第42条 小学校は、文部科学大臣の定めるところにより当該小学校の教育活動等その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。

※ 幼稚園、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校等にもそれぞれ準用。

### 〈学校教育法施行規則〉

第66条 小学校は当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の評価を行うに当たっては、小学校はその実情に応じ、適切な項目を設定して行うものとする。

第67条 小学校は前条第一項の規定による評価の結果を踏まえた当該小学校の児童の保護者その他の当該小学校の関係者（当該小学校の職員を除く）による評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとする。

第68条 小学校は、第66条第一項の規定による評価の結果及び前条の規定により評価を行った場合は、その結果を、当該小学校の設置者に報告するものとする。

※ 幼稚園、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校等にもそれぞれ準用。

### 学校では次のことに取り組みます

- (1) 教職員全員による自己評価を行い、その結果を公表する。
- (2) 保護者などの学校関係者による評価（学校関係者評価）を行うとともにその結果を公表することに努める。
- (3) 自己評価の結果、学校関係者評価の結果を設置者に報告する。

### 3 嬉野市の学校評価の考え方を紹介します。

#### (1) 嬉野市の学校評価は、楽しい学校のための「学校改善」が目標です。

社会環境の変化に伴い、学校の課題解決には学校だけの対応では難しい面が出てきています。そこで、専門家や地域の方々のご指導、支援を仰ぎながら、様々な立場や多くの視点からのご協力を得ることがさらに必要になっています。

嬉野市の学校評価は、学校の課題を解決するために、様々な視点からのご意見、ご支援をいただきながら、学校改善を進め、学校の活性化を目的としています。学校評価を学校・保護者・地域との連携手段として、特に、学校の情報発信による学校理解を進め、説明責任を果たして、学校への信頼のさらなる獲得をめざしています。

特に、学校関係者による客観性のある、学校外の視点からの評価によって、内部では気づかなかった点や地域で子どもたちを育てる点からもご指摘をいただくことを願っています。学校自己評価を補完する意味での学校関係者評価です。

子どもたちにとって「とても楽しい学校」、保護者にとって「行かせたい学校」、地域にとって「行ってみたい学校」をめざしています。



#### (2) 嬉野市の学校評価のポイントは、「学校関係者評価」と「情報提供」

学校の独自性を生かし、学校関係者による学校評価からの学校改善

(サブテーマ) ～ 学校評価を念頭においた情報提供の進め方 ～

#### (3) 嬉野市の学校評価は、次の「5つの基本方針」をもとに進めています。

##### ① 学校関係者評価による客観性のある学校評価

学校自己評価に、客観性、透明性を付与する、つまり「補完する」というスタンスの学校関係者評価から、迅速な学校改善をめざします。

##### ② 情報提供による学校理解から、学校改善を進める学校評価

適切な情報提供によって説明責任を果たし、学校のことを理解していただき、信頼を得てよりよい学校をめざします。

##### ③ 学校教育目標と連動した教職員全員参画による学校評価

学校教育目標に基づき、教職員が参画意識を持ち、一枚岩になって、よりよい学校をめざします。

##### ④ 地域と一体化して、地域へ開いて出る学校評価

家庭・地域と学校が共通理解して、積極的に地域に出て行く学校をめざします。

##### ⑤ 9年間を見通した小中連携による学校評価

小中学校9年間を見通し、よりよい学校づくりをめざします。

嬉野市がめざす学校の姿

子どもが楽しい学校  
子どもが行きたい学校

親が行って楽しい学校  
親が行かせたい学校

先生が楽しい学校  
先生が働きたい学校



子どもたちも  
重要な評価者

学校力の構築

学校ビジョン

基本方針  
①～⑤

③教職員全員参画

組織力

⑤小中連携

学校関係者  
評価

第三者  
評価

①客観性のある評価

①客観性のある評価

P : PLAN 計画  
D : DO 実行  
C : CHECK 評価  
A : ACTION 改善

学校評価PDCA

子どもたちのための学校評価の開発

② 情報提供

④地域と一体化

保護者・地域のニーズ

**(4) 嬉野市の学校評価のイメージは、「創造」です。**

学校評価は、「受け身的」ではなく、学校改善のための欠くことのできない手段として「積極的」に捉え、さらに今までの限界認識に対して「創造する」という意識改革が肝要であると考えます。

**ネガティブ**



**ポジティブ**



**クリエイティブ**

**消極的**



**積極的**



**創造的**

待つ姿勢

評価を受ける

形骸化した行事消化的

依頼する姿勢

評価を求める

意欲的な取組

開発する姿勢

評価を創造する

創造的機動的な組織力

教職員のスタンスと地域に対するスタンス

仕事をいただく  
地域を待つ



仕事を求める  
地域に呼びかける



仕事を創造する  
地域に出て行く

○ 地域の声を待つ

来校を待つ

○ 読み聞かせボランティア

を学校で待つ

○ 地域の声を求める

アンケートをお願いする

○ 高学年が低学年に読

み聞かせをする

○ 地域の声を聞きに行く

地域懇談会で話し合う

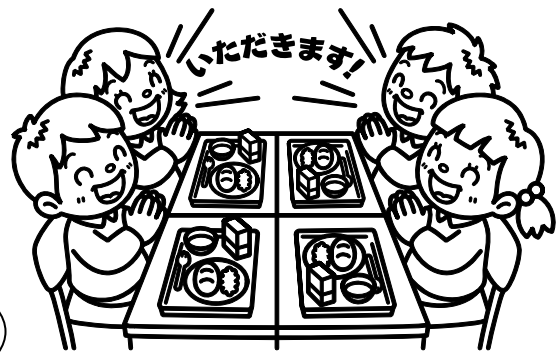
○ 読み聞かせボランティア

のために保育園へ行く

**嬉野市の学校評価のキーワード**

楽しい学校の“創造”

**クリエイティブ**



① 学校自己評価を補完する「学校関係者評価」の創造

(学校理解の限界、説明責任の限界、評価内容の限界)

② 説明責任を果たす「情報提供」の創造

(情報内容、情報提供の手段の限界)

③ 教職員の「全員参画」による学校改善方策の創造

(多忙感、やらされ感、評価システム機能の形骸化)

④ 「学校・地域連携」の創造

(情報提供の限界、学校理解の限界、学校への参集の限界)

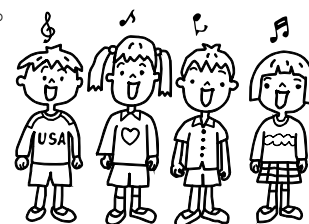
⑤ 「小中連携」の創造

(教職員の相互理解の限界、合同研究・交流授業等時間設定の限界)

## (5) 嬉野市の学校評価の基本方針5点からの「基本スタンス（考え方）」

この5点を嬉野市の学校評価の基本ベースとしています。  
そして、各学校の具体的な学校評価の取組に繋げています。

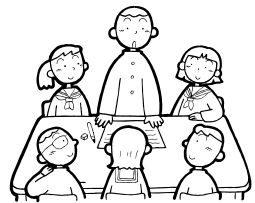
学校評価は、評価のための評価に陥ることなく、子どもたちを主に置いて、学校をどう改善していくかを見つけ出すことが肝要です。




方 向 性	方 策
<b>① 学校関係者評価の基本スタンス</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ あくまで学校自己評価を補完する学校関係者評価をいかに進めるか。</li> <li>○ 何を求めるか、何をいただくかでなく、何をつかむか。</li> <li>○ 何を意図して、情報を発信し、評価をいただくのか。</li> <li>○ 関係者を学校内に取り込む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校自己評価に、客観性、透明性を与える学校関係者評価の進め方の工夫</li> <li>○ 学校理解、及び評価の的確性の限界に対する方策の工夫</li> <li>○ 評価項目の意図は、目標、方策、評価、改善の一貫したPDCAサイクル</li> <li>○ 職員会議（学力向上、生徒指導）、校内研修（学校評価）で、全職員と一緒に協議</li> </ul>
<b>② 学校改善の基本スタンス</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 評価を待つ、評価をしていただくのではなく、子どもたちために、ビジョンを持って学校をどう変えるか。</li> <li>○ 学校を開いて、理解していただく。</li> <li>○ 学校改善を迅速に推進する。</li> <li>○ 学校の実態に即した学校評価を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校改善のための一手段としての学校評価であり、特別な実践ではないという共通理解と共通実践</li> <li>○ 学校理解のための情報発信の工夫</li> <li>○ 時間の確保と速やかな改善</li> <li>○ 学校独自の学校評価体制の構築</li> </ul>
<b>③ 教職員参画の基本スタンス</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校のために何ができるかというモチベーションを高める。</li> <li>○ 一人一人の参画意識から、組織力へ繋げる。</li> <li>○ ボトムアップによる共通実践を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校務分掌のPDCAサイクルについての有益感及び必然性の認識の工夫</li> <li>○ 一人一人がクリエイティブに考え、提案、実践する評価。組織マネジメントによる共通実践</li> </ul>
<b>④ 地域との一体化の基本スタンス</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域に何をしてもらおうかでなく、地域に何ができるか。</li> <li>○ 開いて待つ学校から、開いて出る学校へ変革する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 受け身でない、積極的な働きかけを意識した体験活動</li> <li>○ ボランティアを待つのではなく、出かけていくボランティアの工夫</li> </ul>
<b>⑤ 小中連携の基本スタンス</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 9年のスパンで、児童生徒の成長と変容を見守り、支援する。</li> <li>○ 9年のスパンで、学校改善のための学校評価を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 9年のスパンでの教育課程編成。小中交流による学習指導、学校行事等の推進</li> <li>○ 9年を見通した学校評価の工夫からの学校改善</li> </ul>

## (6) 嬉野市の学校評価の具体的方策

嬉野市教育委員会では、「嬉野市の学校評価の基本方針」の5点について、具体的方策(例)を次のようにとらえています。そして、各学校ではそれぞれの実態に応じて様々な方策を進めています。

	具体的方策(例)
① 学 校 関 係 者 評 価	<p><b>【主旨の理解】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>学校自己評価</u>を補完する意味合いでの <u>学校関係者評価</u>について説明を行い、学校評価の目的の確認と参画意識の高揚を図る。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料P53、P54</span></li> </ul> <p><b>【学校に取り込む事例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校評価の校内研修会に学校関係者評価委員が参加して協議を行う。</li> <li>・ 職員会議では生徒指導の協議で、一緒に説明した。今後は、学力の結果についても一緒に協議するなど、学校課題の共有化を図る。</li> </ul> <p><b>【事前配布】</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料P47</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年度当初に <u>評価項目</u>を配布し、日頃から評価の観点で学校を見て頂く。</li> <li>・ <u>学校自己評価(保護者アンケート含む)</u>結果の分かりやすい提示の工夫(成果と課題)を行う。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料P46～P52</span></li> <li>・ 事資料配布して、一読してきて頂き、協議を深める。</li> </ul> <p><b>【臨場評価・接続校教員の相互参観】</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料P48</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>観察用アンケート</u>について、1日参観によって学校生活を全てみて頂く。</li> </ul> <p><b>【評価項目】</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料P47</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価項目・評価基準の設定は、評価結果の大きな鍵を握る。見えやすい項目と見えにくい項目がある。分かりやすい項目に見直す。</li> </ul> <p><b>【検証】</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">P22参照</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>年2回実施(第2・3回委員会)</u>学校関係者評価・学校改善の変容を見る。</li> </ul> <p><b>【学校関係者評価委員】</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">P19参照</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校評議員、P役員、接続小中学校、地域住民など <u>幅広く委員</u>を求める。</li> </ul> <p><b>【全職員参加による協議】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校関係者とともに全職員が入ることによって、職員の参画意識が高まる。共通理解のもとに一枚岩になった学校改善につながる。</li> </ul> <p><b>【学校評価検討委員会】</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">P13P14参照</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校長・教頭・教務・研究主任・道徳主任(委員の例)</li> <li>・ 全職員を校務分掌についてプロジェクトに振り分ける。</li> </ul> 
② 情 報	<p><b>【目的】</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">P15参照</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校教育目標、校長のビジョン・計画の浸透、学校課題の周知を行い、学校理解を進める。</li> </ul> <p><b>【方策】</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">P16, P18参照</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>メール配信</u>：迅速なメール配信 緊急(危機)、行事、頑張りメール</li> <li>・ 学校便り、HP掲載：定期的な具体的な情報発信 → 学校信頼</li> </ul> <p><b>【工夫】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日曜参観の回数を年1回→年3回(A中学校の参加率：39%→63%)</li> </ul>

<p>提供 ・学校改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参観者を増やす手立て：1日参観の授業の見所の事前お知らせ</li> <li>・教職員の顔写真とプロフィールを紹介する学校便り（先生が身近に）</li> <li>・学校活動説明会の実施 年2回（PTA総会、教育の日）</li> </ul> <p>【改善の時間確保】 <span style="float:right">P12参照</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に事前お知らせの後、12月に外部アンケート実施し、分析を行う。</li> <li>・1月に学校自己評価(内部)を行い、1月下旬から学校関係者評価開始。</li> <li>・1月下旬に再度自己評価を行い、<b>学校改善策</b>を作成する。 <span style="float:right">P34参照</span></li> <li>・3月に来年度から取り組むことは、来年度の学校教育目標、教育計画、各校務分掌等に盛り込む。 <span style="float:right">資料P55、P56</span></li> </ul>
<p>③ 参画意識</p>	<p>【年間計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>学校評価計画表、学校評価総括表</b>の策定 <span style="float:right">資料P43、P55</span></li> <li>・日頃から参画意識を高めるために、職員室の机の上に学校経営ビジョン、学校評価年間プログラムをラミネートして置く。 <span style="float:right">P15参照</span></li> </ul> <p>【校務分掌連動】 <span style="float:right">資料P45</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>校務分掌担当者による目標設定、実践、検証、改善、次期目標設定</b>のPDCAサイクルの日常化（参画意識）を図る。</li> <li>・各担当が分掌の評価を行い、その結果と改善策を全職員で協議する。</li> </ul> <p>【進捗状況報告】 <span style="float:right">P14参照</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議の時に、毎回、教頭が学校評価の話題をあげて意識付けする。</li> <li>・各担当の先生が進捗状況を説明する（ボトムアップ）時間を確保する。動機付け、参画意識につながる。</li> </ul>
<p>④ 地域連携</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域も巻き込み、学校評価が、保護者や地域から信頼を得るものにしていく。地域に働きかけ、地域と一体となった学校教育をめざす。</li> </ul> <p>【具体的活動例】 <span style="float:right">P16参照</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせボランティアや大工さんに補修にきて頂くだけでなく、ゴミ拾い、草刈り、一人暮らしのお年寄りの話し相手、幼稚園・保育園の読み聞かせボランティア、老人保養施設等に出ていく。</li> <li>・地域から学校にきていただくための企画、工夫を進める。</li> </ul>
<p>⑤ 小中連携</p>	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9年間を見据えた教育目標、めざす子ども像にしたがって、小中連携を進め、その9年間を見通した学校評価による学校改善を図る。</li> </ul> <p>【具体的事例】 授業参観、研究授業、学校行事の合同開催（体育大会、弁論大会、合唱コンクール等）の相互交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校9年間を見通した教育目標、共通評価項目の設定</li> <li>・教師側から、<b>子供達の9年間を通した成長</b>が見られる。</li> <li>・進学説明会も中学生の生徒が小学校6年生に説明する。</li> <li>・中1ギャップの解消となる手立てを進める。</li> </ul> <div style="text-align: right;">  </div> <p style="text-align: right;"><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料P58</span></p>



(7) 今までの学校関係者評価は、十分に機能していませんでした。

P19～P23 参照

- ① 学校の情報提供が不十分（学校説明、参観等の機会が不足）
- ② 評価機会、時間帯の不足（評価する情報量が不足）
- ③ 評価項目、尺度が不明確（事前周知や評価項目の検討がなかった）
- ④ 評価者の人的な幅が狭い（学校評議員に限られていた）
- ⑤ 一般教職員との隔離（一部の教職員参加のため、結果の反映が不足）
- ⑥ 学校改善（教職員の参画意識が十分でなく、評価が改善に繋がらない）

以上のように、学校の説明責任が十分果たされず、評価自体について明確な項目や基準がなかったために、学校が求める外部評価が表層的になりがちで、十分に学校改善に結びついていなかった。

嬉野市の「学校関係者評価」の基本的なとらえ方

## 学校自己評価

学校関係者評価

納得性

補完的

評価の客観性

## 学校改善



子どもたちにとって楽しい学校



**(8) 嬉野市の学校関係者評価のキーワードは、次の6つです。**

**① 説明責任**

情報提供を適切に行い、学校の説明責任を果たすことが、学校関係者評価の前提となる。適切な情報内容、迅速な提供が鍵を握る。

**② 情報量（評価機会）**

評価をしていただく機会をどのように設定し、どれだけの情報量を基に、評価をしていただくかは、評価結果への反映という点で重要である。

**③ 客観性と納得性**

学校関係者評価の目的は、客観性、的確性、透明性にある。学校関係者評価の評価基準に「納得できる」「だいたい納得できる」・・・という文言を用いた実践もある。学校自己評価に対して、「納得性」という視点で評価する。

**④ 学校自己評価と学校関係者評価の“ずれ”** P23P33

最も期待することであり、学校改善に直結すると考える。

**⑤ 参画**

学校改善のためには、全教職員の共通理解が必要であり、学校関係者評価委員と一体となった協議も有効である。



**⑥ 機能性**

外部評価後の学校改善の取組に、迅速に反映させることが重要である。

**(9) 嬉野市の学校関係者評価の要素について次のような対策をしています。**

キーワード	要素	対策・工夫等
①説明責任	情報提供	○情報提供の工夫（メール配信、学校便り地区回覧、学校活動説明会の開催、HP等） ○学校行事の工夫（日曜参観年3回、授業の見所配布等） ○事前資料配布（協議の深化のため） ○職員会議の生徒指導関係に、学校関係者評価委員が出席
	評価機会 評価時間帯	○1日参観による学校生活状況の把握 ○年間を通して、学校行事（体育的行事、文化的行事）等への案内を出し、日頃から評価依頼
③客観性 的確性 透明性 納得性	人選	○忌憚のない意見の収集（近すぎず、遠すぎず） ○接続校教員（同業種から一步離れての評価）
	評価項目 評価基準	○年度初めに評価項目を提示 ○小中9年のスパンで、共通項目を定めて、その変容を評価 ○学校自己評価に「納得できるか」という基準での評価
④ずれ	要因の究明	○学校と学校関係者の評価の“ずれ”の要因を究明する。 ○その要因を一つの客観性ととらえ、改善策を導き出す。
⑤参画	協議	○学校関係者評価委員と教職員による学校自己評価の協議 ○共通理解、共通実践の確認と意識化
⑥機能性	学校改善	○学校改善を意識した評価方法の工夫 ○学校関係者評価を迅速で、適切な学校改善へ反映する。

## (10) 嬉野市の情報提供は、「クリエイティブ（創造）」です。

### ① 嬉野市情報提供の2つのねらい

P16~P18参照

#### ア 学校理解のための情報提供の創造

学校関係者評価を行うには、その材料となる評価内容に係る情報提供が前提となる。適切な内容・適度な情報量をいかに提供するかが鍵を握る。

#### イ 保護者・地域の方々の学校参画の創造

地域の教育力を生かすために、保護者・地域の方々に学校へ来ていただく、そして、もう一步進んで学校からも出て行くことが重要である。

### ② 情報提供の方策（双方向）

#### ア 直接対話

P T A 総会、学校行事等の際に直接話して提供する。

#### イ 学校だより（意見欄を設け、日頃から意見をいただく）

地区回覧も含めて、保護者、地域の方々への情報発信を定期的に行う。

#### ウ 携帯メール配信

迅速な情報発信、緊急時の発信、行事の確認発信、がんばりメール発信などを行う。賛同される保護者へEメールや無料携帯メールで提供する。

#### エ ホームページ掲載

容量の大きな写真や動画などを効果的に情報発信できる。より臨場感溢れる内容が掲載でき、双方向のメールによる情報交換も容易である。

#### オ マスコミ（新聞、テレビ局）、地区ケーブルテレビ

メディアを利用した情報発信は、より訴える力がある。さらに地区内外の学校等への普及、学校評価等の効果が期待できる。

### ③ 学校参画の方策（学校へ呼び込む・学校から出て行く）

#### ア 地域の人材活用と地域への児童生徒派遣

地域の専門家、保護者等に学校へ日常的に来ていただくように学校を開く。また、幼稚園、保育所、小学校、高齢者養護施設等へ出向いて行くように学校を開く。

#### イ 学校行事への勧誘

運動会、体育大会、水泳大会、マラソン大会、文化祭、合唱コンクール、校内弁論大会等の学校行事へ、自然に人が集まるように宣伝し勧誘する。

#### ウ 小中合同開催

学校規模に応じて、運動会・体育大会、水泳大会、合唱コンクール、英語暗唱大会などの合同開催をして、案内を出して地域も巻き込む。

#### エ 小中P T A方針合併

小中9年間のスパンでの教育と同様に、P T A活動も小中一貫した方針で進めることも効果的である。

#### オ 地域との合同開催

伝承芸能祭、各種体育行事、ボランティア活動、趣味の活動などを合同開催する。

